

甲斐駒ヶ岳仙丈ヶ岳山行報告書

M3 田中李樹

○日程

2014 年 10 月 18 日（土）～10 月 19 日（月）

○参加者(敬称略 7 名)

M4 荒川、加藤、中西 M3 西村、田中 M0 中武 C1 上村

○行程

1 日目

7:15 北沢峠～7:25 長衛小屋(テント設営)8:00～8:30 仙水小屋～9:30 仙水峠～11:00 駒津峰
～12:30 駒ヶ岳 13:00～14:00 駒津峰 14:10～(双児山)～16:20 北沢峠～16:30 長衛小屋（テ
ント泊）

2 日目

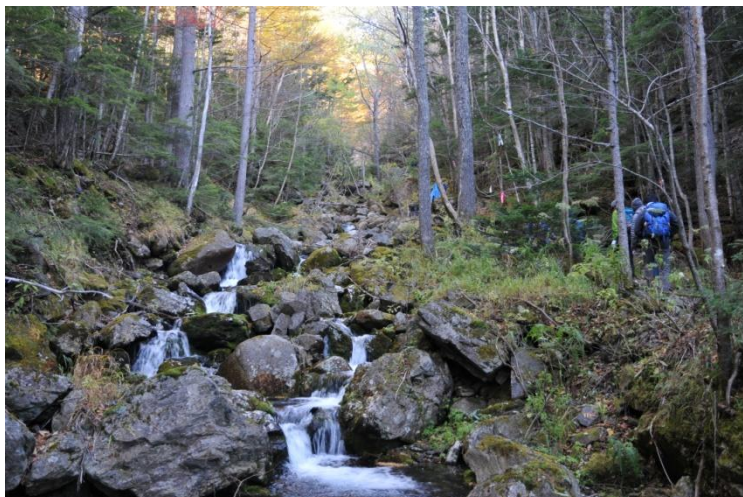
長衛小屋 6:00～8:00 大滝ノ頭 5 合目～9:20 小仙丈ヶ岳～11:00 仙丈ヶ岳～12:30 小仙丈ヶ
岳～13:00 大滝ノ頭 5 合目～14:30 長衛小屋（テント回収）～15:00 北沢峠

○本文

毎年恒例の M4 追い出し山行を企画した。当初は紅葉にあわせ新潟や北関東の山を狙って
いたが、今年は紅葉の時期が早かったらしく紅葉は断念。空気の澄んでくる時期なので、
高山からの景色に期待しようと、アルプスとしては登りやすい甲斐駒仙丈を選んだ。

午前 2 時に本郷キャンパスに集合し、登山口を目指す。マイカー規制のため北沢峠まで
入ることは出来ず、タクシーとバスを乗り継いで登山口に到着した。北沢峠から長衛小屋
は林道で徒歩 10 分。テント装備などはすぐに使うのでパッキングせずに手に持って移動し
たが、なんだかやたら荷物が多く大変だった。長衛小屋に着くとすぐにテント設営にとり
かかる。7 人のパーティーだったので、部のテント 3 張りを全て動員した。各テント 2、3
人だと広々して快適に眠れそう。設営が終わったらついに本格的に登山開始。

仙水小屋までは川沿いの道をだらだら登る。まだハイキング気分。仙水小屋から仙水峠
までの間は、白っぽい石と背
の低い針葉樹が絶妙のバラ
ンスで組み合わせり、日本庭
園の中を歩くような登山道
だった。仙水峠に着くと視界
が開ける。摩利支天が存在感
を放っていた。ここから駒津
峰までが今回の山行の一番
ハードなところ。テント装備
を持たずに登れる上に大し





た危険箇所もなく、自分としては遠足くらいのつもりでいたが、1000m を登って降りると
いうのを 2 日間繰り返すわけで、よく考えたらそれなりにハードかもしれないと気を引き
締める。

駒津峰からは尾根歩きで山頂を目指す。登ったり下りたりが多く意外と面倒。山頂直下
で直登ルートと巻道に分かれるが、登りは直登下りは巻道を選ぶ。地図上では直登ルート
は破線になっていた。実際に登ってみると足場が少ない岩もあり、確かにそこそこ厄介。
破線ルートにするほどではないと思うが、下りは嫌かもしれない。7 人だったので少し慎重
に進んだが、皆難なく登って来たように見えた。

山頂は広く、ゆっくり出来た。少し寒かったけれど。天候は快晴に近く、鳳凰三山や鋸
山など周囲の山々がよく見える。南を見ると、翌日登る仙丈
ヶ岳以南の南アルプ
スの山々がうっすら
雪化粧をしていた。
優美な仙丈ヶ岳とか
っこいい北岳が印象
的だった。

下山は摩利支天を
経由する。摩利支天



までの道は少し分かりにくかったが、特に難しい場所はない。ピークには石碑や鉄剣などが並び異様な雰囲気。信仰の地であることを窺わせる。後で調べたところ、摩利支天というのはサンスクリット語がもとになっていて、仏教の守護神らしい。暫し休憩して再び下山を開始した。

駒津峰から先は双子山を経由して下山する。途中で多少ガスが出てきたが雨には降られていない。夕食の鍋を楽しみにペースをあげて下っていく。北沢峠からの比較的手軽なルートだが、非常に変化に富んだ楽しめる登山だった。

長衛小屋に着くと食事の支度に取り掛かる。鍋に加え、M4の荒川さんがビールを用意してくださり、かなり豪勢な夕食。もともと登山道から近いテント場で夕食は派手にいこうというコンセプトだったが、出来た食事を見てこれは荷物が重たくなるわけだと納得。自分は登山には軽くてアルコール度数の高いウイスキーばかり持っていくが、テントで飲むビールは格別だった。

翌朝は5時ごろ起床。実は前日晚からM4加藤さんが体調を崩されていて、夕食の間も別のテントで寝てもらっていた。一晩で随分体調は良くなったということだが、高山病のような症状もあったのでこの日は登らないほうが良いと判断され、このまま北沢峠を朝出発するバスで帰京されることになった。試験勉強の合間を縫ってきていただいた先輩方にはもっと余裕のあるプランが良かったかもしれないと少し反省。テント場とバス停が近接



していて途中離脱が出来たのが救い。

長衛小屋を6時ごろ出発し、仙丈ヶ岳の登山を開始した。5合目までは展望のないハードな登り。無心で登った。5合目から小仙丈ヶ岳まで行くと



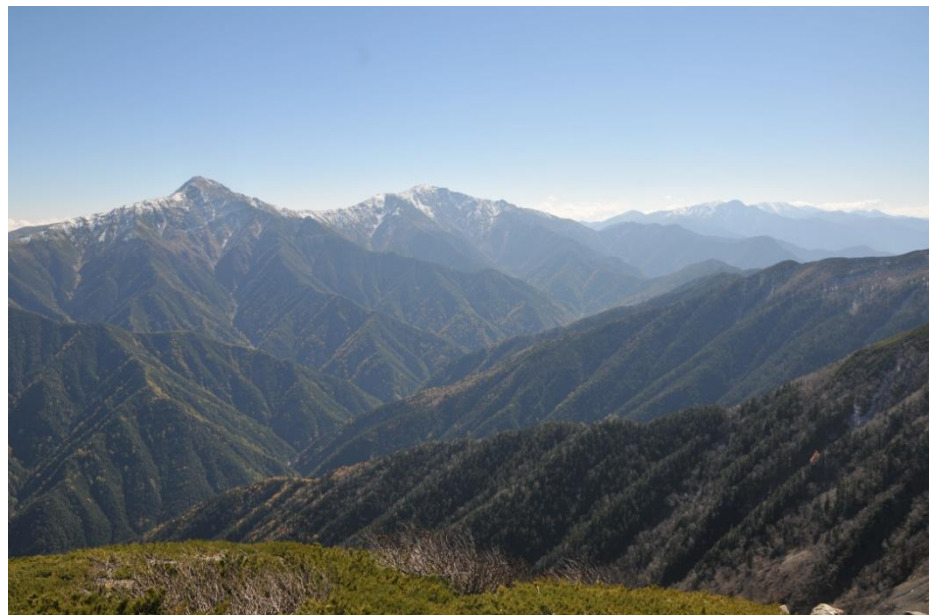


いっきに展望が開ける。前日登った甲斐駒ヶ岳が良く見える。甲斐駒ヶ岳の後ろには見慣れない形の大きな山塊がある。どう見ても 3000m 近くはありそうで、絶対に名前のわかる山のはずなのにと暫く考えてしまったが、八ヶ岳を南からみていることに気付く。こんな見え方をすることもあるのかと謎の感慨にふけてしまった。

この辺りまで来ると足元にはうっすら雪が積もっていた。坂は滑りやすくなっていて、下りは怖いと思いながら慎重に登る。山頂に続く緩やかな尾根は本当に美しかった。雪化粧の効果もあると思うが、この山が女王と呼ばれるのは納得である。山頂に着いた時も天候は良く、素晴らしい景色だった。少々寒かったものの長めに休憩して下山を開始。こ

こから暫くは、思っていたほどではないものの雪で滑りやすい。転ばないよう慎重に下った。

雪がなくなってからは多少ペースをあげて下り、ちょうどよい時間



に長衛小屋に戻ってきた。テントを片付け、バス停に向かう。バスの中からはなかなか素敵な黄葉を見ることが出来た。

下山後は温泉に入り、ほうとうを食べて帰った。帰りの高速の渋滞がひどく都内到着は深夜になってしまったが、無事に帰還してほっとした。忙しい中来て下さった M4 の先輩方にとって、山岳部の良い思い出になっていたらと思う。

